

大学番号：私231

注3

[平成30年度設置]

計画の区分：大学院の設置

注1

認可

相愛大学大学院 音楽研究科

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人相愛学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名

電話番号 06-6612-5902

（夜間） 06-6612-5900

F A X 06-6612-2994

e-mail g-shitsu@soai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 音楽研究科

＜音楽専攻（修士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	11
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27
別紙1：シラバス新旧対照表	31
別紙2：相愛大学FD委員会規程	33
別紙3：相愛大学大学院音楽研究科設置に伴う諸規程等に関する学長達	35
別紙4：設置の趣旨・目的の達成状況に関する統括評価・所見	36

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人相愛学園

## (2) 大学名

相愛大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒559-0033

大阪府大阪市住之江区南港中4丁目4番1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カネコ サトル) 金 児 暁 嗣 (平成24年1月)		
学 長	(カネコ サトル) 金 児 暁 嗣 (平成22年4月)		
研究科長	(クロサカ トシアキ) 黒 坂 俊 昭 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
音楽研究科 音楽専攻 （修士課程） 修士（音楽）	音楽関係	2 年	8 人	— 年次 人	16 人	基礎となる学部等  音楽学部音楽学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	8人 ( ) [ ]	—人 ( ) [ ]	8人 ( ) [ ]	—人 ( ) [ ]	1.12倍	—倍	
志願者数	16 ( ) [ ]	— ( ) [ ]	10 ( ) [ ]	— ( ) [ ]			
受験者数	16 ( ) [ ]	— ( ) [ ]	10 ( ) [ ]	— ( ) [ ]			
合格者数	10 ( ) [ ]	— ( ) [ ]	8 ( ) [ ]	— ( ) [ ]			
B 入学者数	10 ( ) [ ]	— ( ) [ ]	8 ( ) [ ]	— ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.25		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	10 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	8 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
2年次	/		10 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
3年次			/		
4年次	/				
計			10 [ - ] ( - )		18 [ - ] ( - )

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	10 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	18 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<音楽研究科音楽専攻（修士課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	西洋芸術音楽総合演習Ⅰ	1前	1			1	2					
	西洋芸術音楽総合演習Ⅱ	1後	1			1	2					
専門特論科目	現代音楽特論	1前		2								1
	スコア・リーディング	1後		2								1
	楽書講読A	1前		2								1
	楽書講読B	1後		2								1
	音楽によるアウトリーチA	1後		2		1						1
	音楽によるアウトリーチB	2前		2		1						1
	音楽療法特論A	1前		2								1
	音楽療法特論B	1後		2								1
専門科目	オペラ特別演習Ⅰ	1通		2			1					1
	オペラ特別演習Ⅱ	2通		2			1					1
	オーケストラ特別演習Ⅰ	1通		2		4						4
	オーケストラ特別演習Ⅱ	2通		2		4						4
	室内楽特別演習Ⅰ	1通		2		3						
	室内楽特別演習Ⅱ	2通		2		3						
	演奏理論特別演習Ⅰ	1通		2		4	1					
	演奏理論特別演習Ⅱ	2通		2		4	1					1
	作品分析特別演習Ⅰ	1通		4			1					
	作品分析特別演習Ⅱ	2通		4			1					
	西洋音楽史特別演習A	1通		4		1						
	西洋音楽史特別演習B	2通		4		1						
	副科特別実技Ⅰ	1通		2								18
	副科特別実技Ⅱ	2通		2								18
専門研究科目	声楽専門実技Ⅰ	1通		4			1					9
	声楽専門実技Ⅱ	2通		4			1					9
	鍵盤専門実技Ⅰ	1通		4		2		1				18
	鍵盤専門実技Ⅱ	2通		4		2		1				18
	器楽専門実技Ⅰ	1通		4		7						24
	器楽専門実技Ⅱ	2通		4		7						24
	作曲専門実技Ⅰ	1通		4			1					4
	作曲専門実技Ⅱ	2通		4			1					4
	音楽学研究演習Ⅰ	1通		4		1						1
	音楽学研究演習Ⅱ	2通		4		1						1
	作品研究報告書制作 (研究指導)	1~2通	-	-	-	10	2	1				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	西洋芸術音楽総合演習Ⅰ	1前	1			1	2					
	西洋芸術音楽総合演習Ⅱ	1後	1			1	2					
専門特論科目	現代音楽特論	1前		2								1
	スコア・リーディング	1後		2								1
	楽書講読A	1前		2								1
	楽書講読B	1後		2								1
	音楽によるアウトリーチA	1後		2		1						1
	音楽によるアウトリーチB	2前		2		1						1
	音楽療法特論A	1前		2								1
	音楽療法特論B	1後		2								1
専門科目	オペラ特別演習Ⅰ	1通		2			1					1
	オペラ特別演習Ⅱ	2通		2			1					1
	オーケストラ特別演習Ⅰ	1通		2		4						4
	オーケストラ特別演習Ⅱ	2通		2		4						4
	室内楽特別演習Ⅰ	1通		2		3						
	室内楽特別演習Ⅱ	2通		2		3						
	演奏理論特別演習Ⅰ	1通		2		4	1					
	演奏理論特別演習Ⅱ	2通		2		4	1					1
	作品分析特別演習Ⅰ	1通		4			1					
	作品分析特別演習Ⅱ	2通		4			1					
	西洋音楽史特別演習A	1通		4		1						
	西洋音楽史特別演習B	2通		4		1						
	副科特別実技Ⅰ	1通		2								18
	副科特別実技Ⅱ	2通		2								18
専門研究科目	声楽専門実技Ⅰ	1通		4			1					9
	声楽専門実技Ⅱ	2通		4			1					9
	鍵盤専門実技Ⅰ	1通		4		2		1				18
	鍵盤専門実技Ⅱ	2通		4		2		1				18
	器楽専門実技Ⅰ	1通		4		7						24
	器楽専門実技Ⅱ	2通		4		7						24
	作曲専門実技Ⅰ	1通		4			1					4
	作曲専門実技Ⅱ	2通		4			1					4
	音楽学研究演習Ⅰ	1通		4		1						1
	音楽学研究演習Ⅱ	2通		4		1						1
	作品研究報告書制作 (研究指導)	1~2通	-	-	-	10	2	1				

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
共通科目	西洋芸術音楽総合演習Ⅰ	1前	1			1	2					
	西洋芸術音楽総合演習Ⅱ	1後	1			1	2					
専門特論科目	現代音楽特論	1前		2							1	
	スコア・リーディング	1後		2							1	
	楽書講読A	1前		2							1	
	楽書講読B	1後		2							1	
	音楽によるアウトリーチA	1後		2		1					1	
	音楽によるアウトリーチB	2前		2		1					1	
	音楽療法特論A	1前		2							1	
	音楽療法特論B	1後		2							1	
	オペラ特別演習Ⅰ(未開講)	1通		2			1				1	
	オペラ特別演習Ⅱ	2通		2			1				1	
専門演習科目	オーケストラ特別演習Ⅰ	1通		2		4					4	
	オーケストラ特別演習Ⅱ	2通		2		4					4	
	室内楽特別演習Ⅰ	1通		2		3						
	室内楽特別演習Ⅱ	2通		2		3						
	演奏理論特別演習Ⅰ	1通		2		4	1				1	
	演奏理論特別演習Ⅱ	2通		2		4	1				1	
	作品分析特別演習Ⅰ	1通		4			1					
	作品分析特別演習Ⅱ	2通		4			1					
	西洋音楽史特別演習A	1通		4		1						
	西洋音楽史特別演習B	2通		4		1						
	副科特別実技Ⅰ	1通		2							18	
	副科特別実技Ⅱ	2通		2							18	
	専門研究科目	声楽専門実技Ⅰ(未開講)	1通		4			1				10
		声楽専門実技Ⅱ	2通		4			1				10
鍵盤専門実技Ⅰ		1通		4		2		1			18	
鍵盤専門実技Ⅱ(未開講)		2通		4		2		1			18	
器楽専門実技Ⅰ		1通		4		7	1				24	
器楽専門実技Ⅱ		2通		4		7	1				24	
作曲専門実技Ⅰ(未開講)		1通		4			1				4	
作曲専門実技Ⅱ(未開講)		2通		4			1				4	
音楽学研究演習Ⅰ		1通		4		1					1	
音楽学研究演習Ⅱ(未開講)		2通		4		1					1	
作品研究報告書制作		2通		4		1	1					
(研究指導)		1~2通	-	-	-	10	3	1				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)



(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。

**【令和元年度】**

①教育の充実のために、「器楽専門実技Ⅰ」「器楽専門実技Ⅱ」について、担当する兼任教員1名を専任准教授として採用したため「准教授0」から「准教授1」に変更。  
 ②教育の充実のために、「(研究指導)」に准教授1名を採用したため「准教授2」から「准教授3」に変更。  
 ③教育の充実のために、「声楽専門実技Ⅰ」「声楽専門実技Ⅱ」に兼任教員1名を採用したため「兼任・兼任9」から「兼任・兼任10」に変更。  
 ④教育の充実のために、「器楽専門実技Ⅰ」「器楽専門実技Ⅱ」に兼任教員1名を採用したため「兼任・兼任」は1増となるが、上記①記載の通り兼任教員を専任准教授として採用したため「兼任・兼任」は「24」のまま。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	33 科目	0 科目	35 科目	2 科目 [ 0 ]	33 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	35 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{35} = \boxed{\phantom{0}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 本町学舎の一部を相愛高等学校・中学校と共用 相愛高校(収容定員:1,200名/ 面積基準:6,240㎡) 相愛中学校(収容定員:450人/ 面積基準:3,060㎡) (音楽研究科で使用する南港 学舎での共用はなし) 運動場用地として算出して いた「ゴルフ練習場」取壊し による面積減(30)			
	校舎敷地	53,868 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	60,945 ㎡				
	運動場用地	12,664 ㎡ 13,028 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	12,664 ㎡ 13,028 ㎡				
	小 計	66,532 ㎡ 66,896 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	73,609 ㎡ 73,973 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡				
	合 計	66,532 ㎡ 66,896 ㎡	1,263 ㎡	5,814 ㎡	73,609 ㎡ 73,973 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	( 35,331 ㎡)	( 0 ㎡)	( 0 ㎡)	( 35,331 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	47 室	13 室	129 室	7 室 (補助職員 1 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			申請研究科全体 専任教員1名増(元)			
	音楽研究科 音楽専攻		13 14 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書、学術雑誌、電子ジャーナル、視聴覚資料は、音楽学部と共用 機械・器具、標本については大学全体 図書の外国書の減は、除籍による(30) 図書の数は、純増数を加算(元)	
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	音楽研究科	23,505 [5,385] (24,156 [5,365]) (23,994 [5,335]) (23,375 [5,361])	216 [74] (219 [77]) (216 [74])	53 [53] (53 [53])	27,563 (27,914) (27,818) (27,370)	11,917 (11,901) (11,862)	54 ( 54 )		
	計	23,505 [5,385] (24,156 [5,365]) (23,994 [5,335]) (23,375 [5,361])	216 [74] (219 [77]) (216 [74])	53 [53] (53 [53])	27,563 (27,914) (27,818) (27,370)	11,917 (11,901) (11,862)	54 ( 54 )		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	4,110 ㎡		359	244,000					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,024 ㎡		テニスコート6面		ゴルフ練習場				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請研究科全体 「教員1人当り研究費等」は研究科単位での算出不能なため、学部との合計 ※その他、学内の教員を対象とした競争的研究費がある。
		教員1人当り研究費等	80千円	80千円	図書購入費	0千円	407千円	0千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	1,245千円	0千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,590 千円	1,390 千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、寄附金、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA.C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	相 愛 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
大学院										
音楽研究科	2	8	-	16	修士 (音楽)	1.12	-	平成 30年度	大阪市住之江区 南港中4-4-1	
音楽学部										
音楽学科	4	100	-	400	学士 (音楽)	0.67	-	平成 12年度	同上	
音楽マネジメント学科	4	-	-	-	学士 (音楽マネジメント)	-	-	平成 23年度	同上	平成30年より学生募集停止
人文学部										
人文学科	4	90	-	360	学士 (人文学)	1.06	-	平成 25年度	同上	
日本文学コース		(25)								
歴史・サブカルチャーコース		(10)								
仏教文化コース		(10)								
心理コース		(25)								
国際コミュニケーションコース		(10)								
ビジネス・社会コース		(10)								
人間発達学部										
子ども発達学科	4	80	-	320	学士 (子ども発達学)	0.79	-	平成 18年度	同上	
発達栄養学科	4	80	-	320	学士 (発達栄養学)	0.74	-	平成 18年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<音楽研究科 音楽専攻(修士課程)>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	黒坂 俊昭 ( ) <平成30年4月> 文学修士
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 西洋音楽史特別演習A 西洋音楽史特別演習B 音楽学研究演習Ⅰ 音楽学研究演習Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	教授	飯塚 一郎(一朗) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	稲垣 聡 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	小栗(工藤) まち絵 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(with High Distinction)(アメリカ)
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	斎藤 建寛(齊藤 達男) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	清水 信貴 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	黒坂 俊昭 ( ) <平成30年4月> 文学修士
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 西洋音楽史特別演習A 西洋音楽史特別演習B 音楽学研究演習Ⅰ 音楽学研究演習Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	教授	飯塚 一郎(一朗) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	稲垣 聡 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	小栗(工藤) まち絵 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(with High Distinction)(アメリカ)
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	斎藤 建寛(齊藤 達男) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	清水 信貴 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	黒坂 俊昭 ( ) <平成30年4月> 文学修士
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 西洋音楽史特別演習A 西洋音楽史特別演習B 音楽学研究演習Ⅰ 音楽学研究演習Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	教授	飯塚 一郎(一朗) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	稲垣 聡 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	小栗(工藤) まち絵 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(with High Distinction)(アメリカ)
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	斎藤 建寛(齊藤 達男) ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		室内楽特別演習Ⅰ 室内楽特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	清水 信貴 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田辺(田邊) 良子 ( ) <平成30年4月> Master of Music(with Distinction)(アメリカ)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	中谷 満 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	前田 昌宏 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		音楽によるアウトリーチA 音楽によるアウトリーチB 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	山本 英二 ( ) <平成30年4月> Master of Music(アメリカ)
		鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	准教授	泉 貴子 ( ) <平成30年4月> 博士(音楽)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	准教授	松本 直祐樹 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽) 修士(メディア表現)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 作品分析特別演習Ⅰ 作品分析特別演習Ⅱ 作曲専門実技Ⅰ 作曲専門実技Ⅱ (研究指導)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田辺(田邊) 良子 ( ) <平成30年4月> Master of Music(with Distinction)(アメリカ)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	中谷 満 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	前田 昌宏 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		音楽によるアウトリーチA 音楽によるアウトリーチB 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	山本 英二 ( ) <平成30年4月> Master of Music(アメリカ)
		鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	准教授	泉 貴子 ( ) <平成30年4月> 博士(音楽)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	准教授	松本 直祐樹 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽) 修士(メディア表現)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 作品分析特別演習Ⅰ 作品分析特別演習Ⅱ 作曲専門実技Ⅰ 作曲専門実技Ⅱ (研究指導)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田辺(田邊) 良子 ( ) <平成30年4月> Master of Music(with Distinction)(アメリカ)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	中谷 満 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	前田 昌宏 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		音楽によるアウトリーチA 音楽によるアウトリーチB 器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ (研究指導)
専	教授	山本 英二 ( ) <平成30年4月> Master of Music(アメリカ)
		鍵盤専門実技Ⅰ 鍵盤専門実技Ⅱ (研究指導)
専	准教授	泉 貴子 ( ) <平成30年4月> 博士(音楽)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 演奏理論特別演習Ⅰ 演奏理論特別演習Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ 作品研究報告書制作 (研究指導)
専	准教授	松本 直祐樹 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽) 修士(メディア表現)
		西洋芸術音楽総合演習Ⅰ 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ 作品分析特別演習Ⅰ 作品分析特別演習Ⅱ 作曲専門実技Ⅰ 作曲専門実技Ⅱ (研究指導)
専	准教授	大谷(杉山) 玲子 ( ) <平成31年4月> Meester in muziek(ベルギー)
		器楽専門実技Ⅰ 器楽専門実技Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	井上(菊池) 麻紀 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II (研究指導)
兼担	教授	米田 哲二 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I
兼担	准教授	松谷(藤岡) 葉子 ( ) <平成30年4月> 経営学修士(専門職)
		音楽によるアウトリーチ A 音楽によるアウトリーチ B
兼担	准教授	石村 真紀 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		音楽療法特論 A
兼担	准教授	大谷(杉山) 玲子 ( ) <平成30年4月> Meester in muziek (ベルギー)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	大谷 紀美子 ( ) <平成30年4月> Ph. D. in Social Anthropology (イギリス)
		楽書講読 A 楽書講読 B 音楽学研究演習 I 音楽学研究演習 II
兼任	講師	中村 滋延 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		現代音楽特論
兼任	講師	若林 千春 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		スコア・リーディング 作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	石原(山口) 興子 ( ) <平成30年4月> Master of Arts in Music Therapy Anglia Ruskin University(ｲｷﾞﾘｽ)
		音楽療法特論 A

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	井上(菊池) 麻紀 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II (研究指導)
兼担	教授	米田 哲二 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I
兼担	准教授	石村 真紀 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		音楽療法特論 A
兼担	准教授	大谷(杉山) 玲子 ( ) <平成30年4月> Meester in muziek (ベルギー)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	大谷 紀美子 ( ) <平成30年4月> Ph. D. in Social Anthropology (イギリス)
		楽書講読 A 楽書講読 B 音楽学研究演習 I 音楽学研究演習 II
兼任	講師	中村 滋延 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		現代音楽特論
兼任	講師	若林 千春 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		スコア・リーディング 作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	石原(山口) 興子 ( ) <平成30年4月> Master of Arts in Music Therapy Anglia Ruskin University(ｲｷﾞﾘｽ)
		音楽療法特論 A

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	井上(菊池) 麻紀 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II (研究指導)
兼担	教授	岡坊(上野野アマン) 久美子 ( ) <平成31年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼担	准教授	石村 真紀 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		音楽療法特論 A
兼任	講師	大谷 紀美子 ( ) <平成30年4月> Ph. D. in Social Anthropology (イギリス)
		楽書講読 A 楽書講読 B 音楽学研究演習 I 音楽学研究演習 II
兼任	講師	中村 滋延 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		現代音楽特論
兼任	講師	若林 千春 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		スコア・リーディング 作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	石原(山口) 興子 ( ) <平成30年4月> Master of Arts in Music Therapy Anglia Ruskin University(ｲｷﾞﾘｽ)
		音楽療法特論 A

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	馬場 清孝 ( ) ＜平成30年4月＞ 修士(音楽)
		オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	尾高 忠明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	円光寺 雅彦 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	梅田 俊明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	小林 恵子 ( ) ＜平成30年4月＞ 学士(教育学)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	有馬 純寿 ( ) ＜平成31年4月＞ 高等学校卒業
		演奏理論特別演習Ⅱ
兼任	講師	井岡 潤子 ( ) ＜平成30年4月＞ 音楽学修士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	木澤 佐江子 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	畑田 弘美 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	馬場 清孝 ( ) ＜平成30年4月＞ 修士(音楽)
		オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	尾高 忠明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	円光寺 雅彦 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	梅田 俊明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	小林 恵子 ( ) ＜平成30年4月＞ 学士(教育学)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	有馬 純寿 ( ) ＜平成31年4月＞ 高等学校卒業
		演奏理論特別演習Ⅱ
兼任	講師	井岡 潤子 ( ) ＜平成30年4月＞ 音楽学修士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	木澤 佐江子 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	畑田 弘美 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	馬場 清孝 ( ) ＜平成30年4月＞ 修士(音楽)
		オペラ特別演習Ⅰ オペラ特別演習Ⅱ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	尾高 忠明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	円光寺 雅彦 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	梅田 俊明 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	小林 恵子 ( ) ＜平成30年4月＞ 学士(教育学)
		オーケストラ特別演習Ⅰ オーケストラ特別演習Ⅱ
兼任	講師	有馬 純寿 ( ) ＜平成31年4月＞ 高等学校卒業
		演奏理論特別演習Ⅱ
兼任	講師	井岡 潤子 ( ) ＜平成30年4月＞ 音楽学修士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	木澤 佐江子 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ
兼任	講師	畑田 弘美 ( ) ＜平成30年4月＞ 芸術学士
		副科特別実技Ⅰ 副科特別実技Ⅱ 声楽専門実技Ⅰ 声楽専門実技Ⅱ



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	福田 清美 ( ) <平成30年4月> Le Diplome Supérieur de Concertiste (高等演奏家免状「大学院部門」)(フランス)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	松原 友 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	清水 明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	中根 庸介 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	鈴木 豊人 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	首藤 元 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	向井 和久 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	岡本 哲 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	三宅 孝典 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	杉山 康人 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	福田 清美 ( ) <平成30年4月> Le Diplome Supérieur de Concertiste (高等演奏家免状「大学院部門」)(フランス)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	松原 友 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	清水 明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	中根 庸介 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	鈴木 豊人 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	首藤 元 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	向井 和久 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	岡本 哲 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	三宅 孝典 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	杉山 康人 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	福田 清美 ( ) <平成30年4月> Le Diplome Supérieur de Concertiste (高等演奏家免状「大学院部門」)(フランス)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	松原 友 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II 声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	清水 明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	中根 庸介 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	鈴木 豊人 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	首藤 元 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	向井 和久 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	岡本 哲 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	三宅 孝典 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	杉山 康人 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉野 竜城 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	川浪 浩一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	林 俊武 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	幣 隆太郎 ( ) <平成30年4月> Hochschule für Musik Würzburg Meisterklasse (ドイツ)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	吉田 秀 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	片桐 直樹 ( ) <平成30年4月> 音楽学修士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	児玉 祐子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	大谷 正和 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	岡本 麻子 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudium zum Konzertexamen (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	北川 恵美 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudienganges künstlerische Ausbildung im Fach Klavier mit Auszeichnung bestanden (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉野 竜城 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	川浪 浩一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	林 俊武 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	幣 隆太郎 ( ) <平成30年4月> Hochschule für Musik Würzburg Meisterklasse (ドイツ)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	吉田 秀 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	片桐 直樹 ( ) <平成30年4月> 音楽学修士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	児玉 祐子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	大谷 正和 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	岡本 麻子 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudium zum Konzertexamen (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	北川 恵美 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudienganges künstlerische Ausbildung im Fach Klavier mit Auszeichnung bestanden (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉野 竜城 ( ) <平成30年4月> 音楽学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	川浪 浩一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	林 俊武 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	幣 隆太郎 ( ) <平成30年4月> Hochschule für Musik Würzburg Meisterklasse (ドイツ)
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	吉田 秀 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		副科特別実技 I 副科特別実技 II
兼任	講師	片桐 直樹 ( ) <平成30年4月> 音楽学修士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	児玉 祐子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	大谷 正和 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	岡本 麻子 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudium zum Konzertexamen (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	北川 恵美 ( ) <平成30年4月> Aufbaustudienganges künstlerische Ausbildung im Fach Klavier mit Auszeichnung bestanden (ドイツ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小坂 圭太 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	坂本 恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	佐野 えり子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	塩見 亮 ( ) <平成30年4月> Meisterklassenexamen im Künstlerischen Hauptfach Klavier(ドイツ) 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	釈迦郡 洋介 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	田尻 洋一 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	中川(大守) 知保 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	練木 繁夫 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	長谷川 美穂子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	服部 久美子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小坂 圭太 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	坂本 恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	佐野 えり子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	塩見 亮 ( ) <平成30年4月> Meisterklassenexamen im Künstlerischen Hauptfach Klavier(ドイツ) 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	釈迦郡 洋介 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	田尻 洋一 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	中川(大守) 知保 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	練木 繁夫 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	長谷川 美穂子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	服部 久美子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小坂 圭太 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	坂本 恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	佐野 えり子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	塩見 亮 ( ) <平成30年4月> Meisterklassenexamen im Künstlerischen Hauptfach Klavier(ドイツ) 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	釈迦郡 洋介 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	田尻 洋一 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	中川(大守) 知保 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	練木 繁夫 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	長谷川 美穂子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	服部 久美子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	星(羽賀) 裕子 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	彌園 友子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮下 直子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮本 聖子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	山口 博明 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	竹林 秀憲 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岩田 瑞和子 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	Kenneth Tse ( ) <平成30年4月> Doctor of Musical Arts University of Illinois(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	André Henry ( ) <平成30年4月> Aptitude Certificate of Music Teaching(フランス)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	早坂 宏明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	星(羽賀) 裕子 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	彌園 友子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮下 直子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮本 聖子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	山口 博明 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	竹林 秀憲 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岩田 瑞和子 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	Kenneth Tse ( ) <平成30年4月> Doctor of Musical Arts University of Illinois(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	André Henry ( ) <平成30年4月> Aptitude Certificate of Music Teaching(フランス)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	早坂 宏明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	星(羽賀) 裕子 ( ) <平成30年4月> 教育学修士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	彌園 友子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮下 直子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	宮本 聖子 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	山口 博明 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		鍵盤専門実技 I 鍵盤専門実技 II
兼任	講師	竹林 秀憲 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岩田 瑞和子 ( ) <平成30年4月> 短期大学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	Kenneth Tse ( ) <平成30年4月> Doctor of Musical Arts University of Illinois(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	André Henry ( ) <平成30年4月> Aptitude Certificate of Music Teaching(フランス)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	早坂 宏明 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 吉昌 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	宮本(旗瀬) 妥子 ( ) <平成30年4月> Konzertexamen(ドイツ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	吉原(山口)すみれ ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	五十嵐(島貴)由紀子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	池川(井上) 章子 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	漆原 啓子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岸邊 百百雄 ( ) <平成30年4月> ウィーン国立音楽アカデミー卒業 (オーストリア)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	佐藤 一紀 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	曾我部(松井)千恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	田淵(岸邊) 洋子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 吉昌 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	宮本(旗瀬) 妥子 ( ) <平成30年4月> Konzertexamen(ドイツ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	吉原(山口)すみれ ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	五十嵐(島貴)由紀子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	池川(井上) 章子 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	漆原 啓子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岸邊 百百雄 ( ) <平成30年4月> ウィーン国立音楽アカデミー卒業 (オーストリア)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	佐藤 一紀 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	曾我部(松井)千恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	田淵(岸邊) 洋子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 吉昌 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	宮本(旗瀬) 妥子 ( ) <平成30年4月> Konzertexamen(ドイツ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	吉原(山口)すみれ ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	五十嵐(島貴)由紀子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	池川(井上) 章子 ( ) <平成30年4月> 芸術学修士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	漆原 啓子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	岸邊 百百雄 ( ) <平成30年4月> ウィーン国立音楽アカデミー卒業 (オーストリア)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	佐藤 一紀 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	曾我部(松井)千恵子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	田淵(岸邊) 洋子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	マウロ・イウラート ( ) <平成30年4月> Master Degree in Violin at the Conservatorio Statale di Musuca "G. Verdi" di Torino(イ77)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	森田(曾田) 玲子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	今井 信子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	小峰 航一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	竹内 晴夫 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	秋津 智承 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	堤 剛 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	花崎 薫 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	檜垣 智也 ( ) <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	山根 明季子 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	マウロ・イウラート ( ) <平成30年4月> Master Degree in Violin at the Conservatorio Statale di Musuca "G. Verdi" di Torino(イ77)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	森田(曾田) 玲子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	今井 信子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	小峰 航一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	竹内 晴夫 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	秋津 智承 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	堤 剛 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	花崎 薫 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	檜垣 智也 ( ) <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	山根 明季子 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	マウロ・イウラート ( ) <平成30年4月> Master Degree in Violin at the Conservatorio Statale di Musuca "G. Verdi" di Torino(イ77)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	森田(曾田) 玲子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	今井 信子 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	小峰 航一 ( ) <平成30年4月> 学士(音楽)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	竹内 晴夫 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	秋津 智承 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	堤 剛 ( ) <平成30年4月> Artist Diploma(アメリカ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	花崎 薫 ( ) <平成30年4月> 芸術学士
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II
兼任	講師	檜垣 智也 ( ) <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	山根 明季子 ( ) <平成30年4月> 修士(音楽)
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 譲二 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	米田 哲二 ( ) <平成31年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 譲二 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	米田 哲二 ( ) <平成31年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	松谷(藤岡) 葉子 ( ) <平成30年4月> 経営学修士(専門職)
		音楽によるアウトリーチA 音楽によるアウトリーチB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 譲二 ( ) <平成30年4月> 高等学校卒業
		作曲専門実技 I 作曲専門実技 II
兼任	講師	米田 哲二 ( ) <平成31年4月> 芸術学士
		声楽専門実技 I 声楽専門実技 II
兼任	講師	松谷(藤岡) 葉子 ( ) <平成30年4月> 経営学修士(専門職)
		音楽によるアウトリーチA 音楽によるアウトリーチB
兼任	講師	山本 由美子 ( ) <平成31年4月> Konzertexamen(ドイツ)
		器楽専門実技 I 器楽専門実技 II

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・兼任教員として就任予定だった松谷(藤岡)葉子准教授が、平成30年末日をもって退職したが、担当予定だった科目については、兼任教員として担当。

【令和元年度】

- ・平成31年4月 大谷玲子准教授就任。平成30年11月教員審査済(平成30年12月8日審査結果連絡あり)。
- ・平成31年4月 兼任教員、兼任教員各1名就任(兼任:岡坊久美子、兼任:山本由美子)。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
  - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。



(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	研究指導教員 と合わせて 5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
10	2	1	0	13	10	3	1	0	14
(10)	(2)	(1)	(0)	(13)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
12	1	0			13	1	0		
(12)	(1)	(0)			(13)	(1)	(0)		
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	3	1	0	14	10	3	1	0	14
[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
13	1	0			13	1	0		
[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]			[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
68	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{14}{13} = \boxed{107.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{2}{14} = \boxed{14.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{13} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
認 可 時 (平成29年8月)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的に沿った教育・研究活動が遂行できるように、また、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を養成することを念頭に編成した教育課程の確実な遂行ができるように、これまでの大学学部における自己点検の実施体制・実施方法、結果の活用と公表の方法を準用すると共に、大学院独自の諸活動に係る項目を設定して点検・評価を行い、改善活動に資することを予定している。また、FD活動においても、研究科委員会等において、定期的な協議の場を設け、授業内容及び方法の改善を図っている。(30)	履行済	
	2. 音楽学の領域の修了要件について、「口述又は筆記試験」の実施時期が資料によって異なっているため、規程等において、正しい時期を明確にし、学生等に適切に周知すること。	留意事項 『相愛大学大学院音楽研究科履修要覧 2018(平成30年度)』の「授業等スケジュール」の項において、音楽学領域における修士論文審査及び口述試験の実施を、2年次2月に実施する旨記載し、明らかにしている。また、「学位(修士)取得に向けて」の項において、 ・ 修士論文(音楽学領域) (3) 修士論文審査及び口述試験 2月下旬と記載し、学生等に適切に周知を図っている。 その他、入学時におけるガイダンスにおいても、関係個所を含めた学生への周知を行った。(30)	履行済	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年度)	該当なし			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <音楽研究科 音楽専攻（修士課程）>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①シラバスの表記 『作品分析特別演習Ⅰ』『作品分析特別演習Ⅱ』『西洋音楽史特別演習A』『西洋音楽史特別演習B』の4科目について、「通年」で設定しているが、授業計画が15回分の表記になっている。	左記4科目については、「通年」での設定であり、30回分の授業計画が必要である。1回分の授業計画であげている授業内容は、当初から2回分の時間を要するとして15回分で記載したが、授業回数を30回としてポータル等でのシラバスの修正を行うとともに、履修登録等に関するガイダンスでも学生への周知を図った。(30)
②シラバスの表記 『楽書講読A』『楽書講読B』の2科目の題材について	左記2科目については、1年目の授業と2年目の授業の題材が同じであれば、学生間でその内容が伝わるのが考えられることから、毎年その題材を見直すこととしたため、シラバスへの記載を改め、学生にも周知した。(別紙1:「シラバス新旧対照表」参照)(元)

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 平成20年度より、全学的なFD委員会が設置されている。 (別紙2:「相愛大学FD委員会規程」参照/平成31年4月1日付で学内組織の変更により同規程の一部改正を行ったが、下記bの記載内容との整合性から、旧規程を添付) ※平成30年2月15日付「相愛大学大学院音楽研究科設置に伴う諸規程等に関する学長達」において、音楽研究科が関係する諸規程において以下の通り解するものとしている。(別紙3参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「大学」は、「大学(大学院音楽研究科を含む。)」</li> <li>2 「学生」は、「学生(大学院学生を含む。)」</li> <li>3 「教授会」は、「教授会(研究科委員会を含む。)」</li> <li>4 「音楽学部」は、「音楽学部(音楽研究科を含む。)」</li> <li>5 「各学部」は、「各学部(ただし、音楽学部は音楽研究科を含む。)」</li> </ol> <p>「相愛大学FD委員会規程」においても、「音楽研究科」を含めたものと解する。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 平成30年度は、計4回(5/16、7/12、10/1、1/31)委員会が開催された。 委員の構成は、副学長(自己点検・評価担当)、教学部長、各学部より選出された者1名、共通教育センターより選出された者1名、各事務部長、その他学長が必要と認めた者若干名 (平成30年度の委員構成は、教員6名と職員2名)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業評価アンケート(実施・結果・分析結果)について</li> <li>・ 授業公開(見学)について</li> <li>・ FD研修会について</li> <li>・ 事業計画について</li> <li>・ その他</li> </ul>
<p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業評価アンケート</li> <li>・ 教員相互の授業見学</li> <li>・ FD研修会(シンポジウム形式、グループワーク形式、外部講師招聘等)</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業評価アンケートの実施 講義期間内に実施し、その結果を教員にフィードバックし、それについての教員の意見及び改善が必要な場合の改善方策を提出させることで、早急な授業改善に繋げている。 結果についても、ポータルサイト等において教職員・学生に向けて公開している。</li> </ul>

- ・教員相互の授業見学  
参加の機会を増やすために、原則として全授業公開として実施した（大学院音楽研究科の授業も対象）。授業担当者と見学者、また見学者同士の意見交換を通して、各自の授業のより一層の改善を図ることを目的に実施している。終了後、授業の内容、教授方法等についての、見学者からのコメントを、「FD授業公開コメント集」として冊子にまとめ、授業改善に繋げている。
- ・FD研修会（シンポジウム形式、グループワーク形式、外部講師招聘等）  
本学教職員や外部講師によるテーマを基にした講演を行う。また、テーマによっては、シンポジウム形式やグループワーク形式で、教職員間での議論も行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・授業評価アンケートの実施  
年2回実施  
（全教員ひとり1科目を対象として実施。平成30年度の実施時期：7月11日～7月31日／12月17日～1月23日）
- ・教員相互の授業見学  
年2回実施  
（平成30年度：6月6日～6月19日、11月8日～11月24日／専任教員の授業はすべて公開。）
- ・FD研修会（研修会は2008年度から実施している。教員の参加は毎回、40～90名。）  
（過去5年の開催内容は以下の通り）  
  - <シンポジウム形式>
    - 2014年度 「各学部における教育への取り組み－『大学基礎力調査』の結果を受けて－」  
（2014年10月24日開催）
    - 2015年度 「SA制度を試験的に導入してみた－実施状況、問題点、改善策－」（2016年2月17日開催）
    - 2016年度 「外部研修会のFD報告－相愛大学FD活動へのヒント－」（2016年8月4日開催）
    - 2018年度 「新入試制度を見据えた入学前教育の現状と課題」（2019年2月14日開催）
  - <グループワーク形式>
    - 2016年度 「授業改善の取り組みの報告事例」（2017年2月16日開催）
    - 2017年度 「相愛大学各学部の授業内容・方法の改善、向上のための組織的な取組（FD）のいま－大学全体として何が足りない？－」（2017年8月3日開催）
    - 2017年度 「相愛大学の教育が目指すもの」（2018年2月15日開催）
    - 2018年度 「各学部学科・センター初年次教育の報告」（2018年8月2日開催）
    - 2018年度 「芸術系を含む大学の初年次教育の調査報告」（2018年10月15日開催）
  - <外部講師招聘>
    - 2014年度 「『大学生基礎力調査』から考える本学学生の現状と課題」（2014年7月31日開催）
    - 2015年度 「グローバル人材育成と英語教育－英語による教授法のポイントと課題－」  
（2015年4月27日開催）
    - 2015年度 「大学における学生生活の充実方策について－ピア・サポート・プログラム」  
（2015年12月10日開催）
    - 2016年度 「チューデントアシスタントを活用したFDの展開」（2016年10月17日開催）
    - 2017年度 「高大連携から高大接続改革へ－政策と実態を確認する－」（2017年10月24日開催）
  - <その他>
    - 2014年度 「ICTとは？ 進化する教育法を学ぶ－新教室「コスモ・アイ」の活用に向けて－」  
（2015年2月18日開催）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業評価アンケートの結果を受けて、各教員に結果に対するコメント、改善の方法などを記述してもらい、並行して委員会において分析し取りまとめたものを、冊子にして刊行・配布すると共に、ポータルサイトにて公開を行っている。FD委員会や各学部等において、改善の方途を組織的に検討している。
- ・教員相互の授業見学については、授業公開終了後に今後の改善に資するよう、可能な限り、担当者を含めた意見交換会を開いている。また、見学者からの意見をまとめた「FD授業公開コメント集」を作成し、改善につなげている。
- ・FD研修会については、終了後、参加者からコメントを求め、「FD研修会コメント集」として冊子を作成し、今後の教育改革に繋げている。
- ・全学的な取り組みについては一定の方式が定着し、積み上げられてきている。その結果、授業改善に効果がみられつつある。引き続き継続的に検証を加えると共に、綿密化を図りながら組織全体に行き渡らせるために、各学部等でのFD活動の充実を図っていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施時期：7月11日～7月31日／12月17日～1月23日

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・授業評価アンケートの結果を受けて、各教員に結果に対するコメント、改善の方法などを記述してもらい、並行して委員会において分析し取りまとめたものを、冊子にして刊行・配布すると共に、ポータルサイトにて公開を行っている（教員・学生共に閲覧が可能）。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

以下、該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

- a 審議した内容
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 (別紙4)</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期 ・令和元年7月公表(予定)</p> <p>b 公表方法 ・大学ホームページ上に公開予定</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 ・令和4年度に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受けるべく、学内で検討中。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書(令和元年度)</p> <p>a ホームページへの公表予定の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</p> <p>b 公表有の場合の公表(予定)時期 ( 令和元年 7月 末日 )</p> <p>b 公表無の場合の特段の理由 ( )</p>
---

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。



# シラバス新旧対照表

(別紙1)

新		旧	
科目名	楽書講読A	科目名	楽書講読A
科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)	科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)
担当教員	大谷 紀美子	担当教員	大谷 紀美子
授業概要	西洋芸術音楽に関しては音楽史、楽曲分析、音楽社会学、音楽心理学、音楽学などの立場から数多くの論文や論考が残されている。それらが音楽学研究は言うまでもなく、作曲の場並びに演奏の場にあっても大いに役立つことに疑いを挟む余地はない。1つの論文を読破することによって論理的思考が鍛えられ、それを自らの活動に汎用する能力が養われる。ただこれらの論文や論考は外国語で記述されたものが多く、その読破は容易でない。授業では丁寧な翻訳と共に、著者の意図する所について討論しながら、外国語で書かれた記述の確実な理解を試みる。	授業概要	西洋芸術音楽に関しては音楽史、楽曲分析、音楽社会学、音楽心理学、音楽学などの立場から数多くの論文や論考が残されている。それらが音楽学研究は言うまでもなく、作曲の場並びに演奏の場にあっても大いに役立つことに疑いを挟む余地はない。1つの論文を読破することによって論理的思考が鍛えられ、それを自らの活動に汎用する能力が養われる。ただこれらの論文や論考は外国語で記述されたものが多く、その読破は容易でない。授業では丁寧な翻訳と共に、著者の意図する所について討論しながら、外国語で書かれた記述の確実な理解を試みる。
到達目標	英語で記述された論文を理解し、その内容に関して学生間で討論できると。	到達目標	英語で記述された論文を理解し、その内容に関して学生間で討論できると。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに。講読する論文に関する簡単な説明。授業の進め方など。</li> <li>2. "People of Allada, This Is Our Return"の最初の部分を読み討論する。</li> <li>3. Multiple Temporalities の項目を読み討論する。</li> <li>4. "Alladanou" 同上</li> <li>5. Togbe 同上</li> <li>6. Indexing Porto Novo / Xogbonu 同上</li> <li>7. Adjogan : Transformations of Style, Genre, and Signification 同上</li> <li>8. Postcolonial Traditions : The Beninois Brass Band 同上</li> <li>9. An Analytical Framework for Alladanou : Intertexts, Indexicality 同上</li> <li>10. Ganbe : Resonance 同上</li> <li>11. Audience 同上</li> <li>12. Returns: Space, Time, Intervalle 同上</li> <li>13. Conclusions 同上</li> <li>14. まとめ 及び ディスカッション -1</li> <li>15. まとめ 及び ディスカッション -2</li> </ol>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに。購読する論文に関する簡単な説明。授業の進め方など。</li> <li>2. The Postmodern West: Collapse of the Pyramid の項目を読み討論する。</li> <li>3. : Paths to Nowhere 同上</li> <li>4. : The postmodern Compromise 同上</li> <li>5. : Spirituality goes 'Pop' -1 同上</li> <li>6. : Spirituality goes 'Pop' -2 同上</li> <li>7. : The Global Market Place -1 同上</li> <li>8. : The Global Market Place -2 同上</li> <li>9. : Multiculturalism goes 'Pop' -1 同上</li> <li>10. : Multiculturalism goes 'Pop' -2 同上</li> <li>11. : Multiculturalism goes 'Pop' -3 同上</li> <li>12. : Beauty and Beast (2) -1 同上</li> <li>13. : Beauty and Beast (2) -2 同上</li> <li>14. : Recovering the Numinous 同上</li> <li>15. まとめ 及び ディスカッション 2.</li> </ol>
評価方法	授業中に行う発表 (30%)、ディスカッションへの参加状況およびレポートの提出 (70%)	評価方法	授業中に行う発表 (30%)、ディスカッションへの参加状況およびレポートの提出 (70%)
テキスト・参考書等	Sarah Politz "People of Alladam This Is Our Return": Indexicality, Multiple Temporalities, and Resonance in the Music of the Ganbe Brass Band of Benin	テキスト・参考書等	Fletcher, Peter 2001 World Musics in Context. Oxford University Press
履修条件	特になし	履修条件	特になし
備考		備考	

新		旧	
科目名	楽書講読A	科目名	楽書講読A
科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)	科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)
担当教員	大谷 紀美子	担当教員	大谷 紀美子
授業概要	西洋芸術音楽に関しては音楽史、楽曲分析、音楽社会学、音楽心理学、音楽学などの立場から数多くの論文や論考が残されている。それらが音楽学研究は言うまでもなく、作曲の場並びに演奏の場にあっても大いに役立つことに疑いを挟む余地はない。1つの論文を読破することによって論理的思考が鍛えられ、それを自らの活動に汎用する能力が養われる。ただこれらの論文や論考は外国語で記述されたものが多く、その読破は容易でない。授業では丁寧な翻訳と共に、著者の意図する所について討論しながら、外国語で書かれた記述の確実な理解を試みる。	授業概要	西洋芸術音楽に関しては音楽史、楽曲分析、音楽社会学、音楽心理学、音楽学などの立場から数多くの論文や論考が残されている。それらが音楽学研究は言うまでもなく、作曲の場並びに演奏の場にあっても大いに役立つことに疑いを挟む余地はない。1つの論文を読破することによって論理的思考が鍛えられ、それを自らの活動に汎用する能力が養われる。ただこれらの論文や論考は外国語で記述されたものが多く、その読破は容易でない。授業では丁寧な翻訳と共に、著者の意図する所について討論しながら、外国語で書かれた記述の確実な理解を試みる。
到達目標	英語で記述された論文を理解し、その内容に関して学生間で討論できると。	到達目標	英語で記述された論文を理解し、その内容に関して学生間で討論できると。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに。購読する論文に関する簡単な説明。授業の進め方など。</li> <li>2. The Postmodern West: Collapse of the Pyramid の項目を読み討論する。</li> <li>3. : Paths to Nowhere 同上</li> <li>4. : The postmodern Compromise 同上</li> <li>5. : Spirituality goes 'Pop' -1 同上</li> <li>6. : Spirituality goes 'Pop' -2 同上</li> <li>7. : The Global Market Place -1 同上</li> <li>8. : The Global Market Place -2 同上</li> <li>9. : Multiculturalism goes 'Pop' -1 同上</li> <li>10. : Multiculturalism goes 'Pop' -2 同上</li> <li>11. : Multiculturalism goes 'Pop' -3 同上</li> <li>12. : Beauty and Beast (2) -1 同上</li> <li>13. : Beauty and Beast (2) -2 同上</li> <li>14. : Recovering the Numinous 同上</li> <li>15. まとめ 及び ディスカッション 2.</li> </ol>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに。購読する論文に関する簡単な説明。授業の進め方など。</li> <li>2. The Postmodern West: Collapse of the Pyramid の項目を読み討論する。</li> <li>3. : Paths to Nowhere 同上</li> <li>4. : The postmodern Compromise 同上</li> <li>5. : Spirituality goes 'Pop' -1 同上</li> <li>6. : Spirituality goes 'Pop' -2 同上</li> <li>7. : The Global Market Place -1 同上</li> <li>8. : The Global Market Place -2 同上</li> <li>9. : Multiculturalism goes 'Pop' -1 同上</li> <li>10. : Multiculturalism goes 'Pop' -2 同上</li> <li>11. : Multiculturalism goes 'Pop' -3 同上</li> <li>12. : Beauty and Beast (2) -1 同上</li> <li>13. : Beauty and Beast (2) -2 同上</li> <li>14. : Recovering the Numinous 同上</li> <li>15. まとめ 及び ディスカッション 2.</li> </ol>
評価方法	授業中に行う発表 (30%)、ディスカッションへの参加状況およびレポートの提出 (70%)	評価方法	授業中に行う発表 (30%)、ディスカッションへの参加状況およびレポートの提出 (70%)
テキスト・参考書等	Fletcher, Peter 2001 World Musics in Context. Oxford University Press	テキスト・参考書等	Fletcher, Peter 2001 World Musics in Context. Oxford University Press
履修条件	特になし	履修条件	特になし
備考		備考	

新

科目名	楽書講読B		1 年次 後期
科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)		2 単位
担当教員	大谷 紀美子		
授業概要	楽書講読の授業は、学生の語学力の向上を目指すよりも、外国語で書かれた文書を理解することにある。それは外国語による記述がその言語の持つ論理性と関係があり、その論理によって解されることが望まれることを意味している。その中では、楽譜に沿って具体的に記述された、個別の作品を分析した論文が最も理解しやすく、本演習はそういった作品論等の論文の精読を中心とする。またそこから得られた論理的把握力を演奏等の場に援用する志向も目指していく。		
到達目標	外国語 (英語) で記述された楽譜の分析に慣れること。購読を通して、論理的思考を深めること。 1. はじめに。論文・学会誌の紹介。 2. 著者紹介等 3. Aguante 4. Chanting as Participatory Performance Tradition and the Social Organization of the Stadium 5. Chanting and Instrumental Playing ① 6. Chanting and Instrumental Playing ② 7. Transgressing the Other: Homophobia and Racism ① 8. Transgressing the Other: Homophobia and Racism ② 9. Profanity, Slurs, and Cognitive Dissonance 10. Psrticipatory Chanting and Deindividuation 11. Plural Bodies and the Performativity of Assemblies 12. Concluding Thoughts 13. 討論 ① 14. 討論 ② 15. まとめ		
授業計画			
評価方法	授業中の発表 (30%) および期末レポート (70%)		
テキスト・参考書等	Eduardo Herrera Masculinity, Violence, and Deindividuation in Argentine Soccer Chants: The Sonic Potentials of Participatory Sounding-in-Synchrony		
履修条件	特になし		
備考			

旧

科目名	楽書講読B		1 年次 後期
科目区分	専門科目   専門特論科目 (選択)		2 単位
担当教員	大谷 紀美子		
授業概要	楽書講読の授業は、学生の語学力の向上を目指すよりも、外国語で書かれた文書を理解することにある。それは外国語による記述がその言語の持つ論理性と関係があり、その論理によって解されることが望まれることを意味している。その中では、楽譜に沿って具体的に記述された、個別の作品を分析した論文が最も理解しやすく、本演習はそういった作品論等の論文の精読を中心とする。またそこから得られた論理的把握力を演奏等の場に援用する志向も目指していく。		
到達目標	外国語 (英語) で記述された楽譜の分析に慣れること。購読を通して、論理的思考を深めること。 1. はじめに。作曲家、Nicolas Medtner について。 2. 1900 – 1903 Start of a career – 1 3. 1900 – 1903 Start of a career – 2 4. Eight Stimmungsbilder [ Mood Pictures ], Op.1 5. Three Fantastic Improvisations, Op.2 6. Three Romances, Op.3 7. Four Pieces for Piano, Op.4 8. Sonata in F minor, Op.5 9. 1903 – 1906 Personal turmoil 10. Nine Goethe Songs, Op.6 11. Three Arabesques, Op.7 12. Two Maerchen [Fairy Tales]. Op.8 13. Three Dithyrambs, Op.10 14. Sonaten-Triade, Op.11 15. まとめ		
授業計画			
評価方法	授業中の発表 (30%) および期末レポート (70%)		
テキスト・参考書等	Martyn, Barrie 1995 Nicolas Medtner: His Life and Music. Hants, England: SCOLAR PRESS		
履修条件	特になし		
備考			

相愛大学FD委員会規程

平成27年5月14日一部改正

(設置)

第1条 相愛大学(以下「本学」という。)にFD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 本学教員の教育研究活動の向上と能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、FDに関わる事項を審議する

(所管)

第3条 委員会は以下の事項を所管する。

- (1) FDの企画・立案に関すること
- (2) FDの実施計画と運営に関すること
- (3) FD活動に関わる情報の収集と提供
- (4) FDに関する広報活動
- (5) その他FDに関する事項

(構成)

第4条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 副学長(自己点検・評価担当)
- (2) 教学部長
- (3) 各学部より選出された者1名
- (4) 共通教育センターより選出された者1名
- (5) 各事務部長
- (6) その他学長が必要と認めた者若干名

(委員長)

第5条 委員会を統括するために委員長を置く。

- 2 委員長は委員の中から学長が任命する。
- 3 委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 委員長は必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

(任期)

第6条 第4条の委員の任期は次の通りとする。

- (1) 第4条第1号、2号、5号の委員の任期はその在任中とする。
- (2) 第4条第3号、4号、6号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(事務の所管)

第7条 委員会の事務は教学課が所管する。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学評議会の審議を経て、学長が行う。

附則

この規程は、平成20年7月17日より施行する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成27年5月14日から施行する。

相愛大学大学院音楽研究科設置に伴う諸規程等に関する学長達

平成30年2月15日

平成30年4月1日の相愛大学大学院音楽研究科の設置に伴い、特段の定めがあるものの他、大学の諸規程等は、原則として、下記の通り解するものとする。

- 1 「大学」は、「大学（大学院音楽研究科を含む。）」
- 2 「学生」は、「学生（大学院学生を含む。）」
- 3 「教授会」は、「教授会（研究科委員会を含む。）」
- 4 「音楽学部」は、「音楽学部（音楽研究科を含む。）」
- 5 「各学部」は、「各学部（ただし、音楽学部は音楽研究科を含む。）」
- 6 ただし、不都合がある場合や疑義がある場合は、学長が事務局長等と協議し、決定するものとする。

以上

## 設置の趣旨・目的の達成状況に関する統括評価・所見

### ○「音楽研究科音楽専攻（修士課程）」の設置の趣旨・目的

相愛大学の音楽教育は、明治末期より今日に至るまで、高度な音楽的技術の修得にとどまらず、宗教的情操を備え、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者ならびに音楽文化と産業の振興に貢献できる人材を育成してきた。

「音楽研究科」では、この理念を継承しつつ、その真髄を究めるために、さらに高度な演奏技能・創作能力・研究能力を養い、同時にその技能・能力・知識を発揮するための教養を涵養し、多様性を帯びてきている音楽の諸相に対応し得る見識を養うことによって、音楽を幅広く総合的に捉えるための深い学識を授けることを教育研究上の理念とした。

### ○設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

#### 教育課程等

「楽書講読A」「楽書講読B」において、1年目の授業と2年目の授業の題材が同じであれば、学生間でその内容が伝わることを考えられることから、毎年その題材を見直すこととしたため、シラバスへの記載を改め、学生にも周知した。

「声楽専門実技Ⅰ」「声楽専門実技Ⅱ」の授業に、学部との兼任教員として1名追加した。また、「器楽専門実技Ⅰ（弦楽器）」「器楽専門実技Ⅱ（弦楽器）」に、新たに兼任教員を1名追加した。

#### 学生募集、入学者選抜等

平成30年7月25日に開催した説明会において、平成31年度の「学生募集要項」をもとに大学院音楽研究科での教育研究上の理念・目的、3つのポリシー、カリキュラム、学費、入学試験の概要等の説明を行い学内外での周知を図った。また、募集要項の内容については、ホームページにおいても公表し、広く募集を開始した。

前期試験は平成30年9月29日から30日、後期試験は平成31年2月28日から3月1日に実施したところ、合わせて10名の志願者があり、入学者は8名（入学定員8名）となった。

なお、入学者へのアンケート調査を実施することで、今後の学生募集対策へとつなげていくこととしている。

現在は概ね当初計画通りに運用がなされているが、次年度以降も学年進行に従い、設置計画を確実に履行していきたいと考えている。